

NPO法人

# 久喜の自然を愛する会

## 会報

NO. 27 2016年12月

### 会のモットー

- 1 足元から自然を学ぼう
- 2 <sup>いま</sup> 現在 ある自然を次の世代に残そう

### ★★活動の記録（写真版）★★

★ふれあいウオーク「中土手」

2016年6月26日(日)



久喜菖蒲公園駐車場での記念撮影



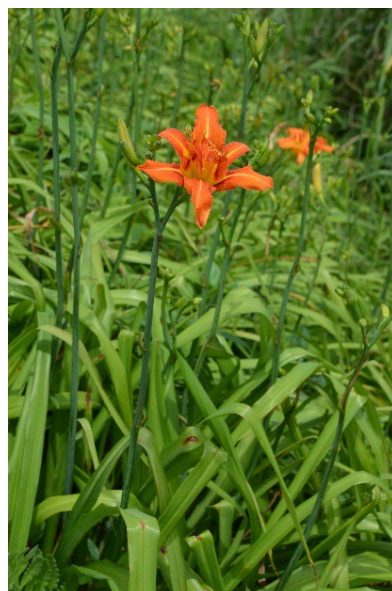
ソクズ



セイバンモロコシ



イヌゴマ



ヤブカンゾウ



観察風景



ワレモコウ



ヌマトラノオ



ネジバナ

★ふれあいウオーク「吉羽天神」 2016年9月11日(日)



宮代運動公園での記念撮影



アオツヅラフジ



意見交換風景



マルバルコウソウ



ケイヌビエ



ヒデリコ



クマツズラ



オオイヌタデ



これがセイバンモロコシです

★ふれあいウォーク「多摩森林科学園」

2016年10月27日(木)



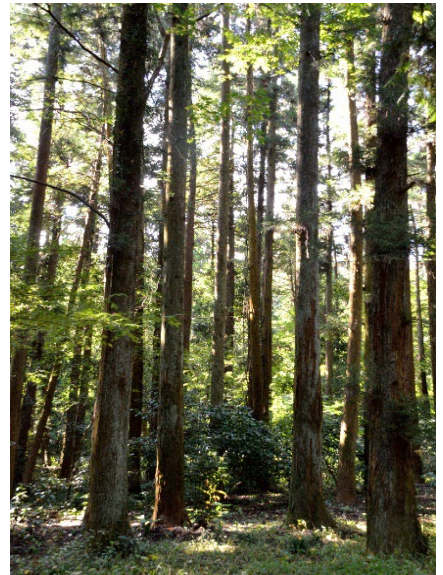
摩森林科学園での記念撮影



フノハナワラビ



ツリフネソウ



見事な北山杉



小澤酒造での記念撮影



杉玉

★太田小ビオトープ再生活動 2016年6月8日



① 太田小だより  
ビオトープ委員会が掲載されています



② 樹木を伐採し、除草を継続しています



② 日当たりスペースが拡大されました



④ 「ミゾコウジュ」が開花して、数株ロゼットが生育しています



⑤ 年一回の樹木伐採へ、「テープ巻き」をして、伐採を依頼中です



⑥ 今後、「アズマネザサ」のササ原を日当たりのよい斜面に改善の計画です

## ★野草保護活動

6月

★ 東側 7名



★西側 5名



7月

★ 東側 5名



★ 西側 6名



8月

★ 東側 8名



★ 西側 5名



9月

★ 東側 8名



★ 西側 6名



10月

★ 東側 5名



★ 西側 6名



### ★放課後子供教室教

7月16日 太田小学校 ザリガリ釣り



ザリガリは釣れるかな

9月3日 太田小学校 ドングリ遊び



ドングリ集め



ドングリで何を作っているのかな



ジャガイモと馬鈴薯は同じもの？

我々は普通ジャガイモと馬鈴薯は同じものだと思っている。言い方の違いというか漢字で書くと馬鈴薯であり、普通にはジャガイモと言う。馬鈴薯の方が上品な感じがするな、とかそんなものである。ところが日本の植物学の父といわれる牧野富太郎氏によると、両者は全然別な物なのである。（「植物一日一題」牧野富太郎著）

ここで牧野富太郎氏についてふれておく。

氏は小学校を2年で中退ながら、東大の助手・講師を47年間も勤めた人である。命名した植物は2,500種以上、新発見も600種以上ある。

ムジナモは氏の新発見として代表的なものであるが、現在は埼玉県羽生市の宝蔵寺沼に人の保護下でわずかに生育している。私はこの夏、地元の保護団体の「ムジナモ観察会」に参加して幸運にも幻の花と言われるムジナモの花を見ることができた。直径5mmにも満たない小さな花である。また我々がよく知っているワルナスビ、ノボロギクも氏の命名である。ハキダメギクは発見場所からつけたが、安直な命名だと言われている。イヌノフグリに至ってはどうかと思うところがある。もっともこれは和歌山県の地方で言っていたものから名付けたという説もある。「雑草という名の草はない」という言葉は昭和天皇の言葉として知られているが元は牧野氏の発言だと言われている。

その牧野氏によると、馬鈴薯は中国福建省の松溪县という所に産するつる草の事だと云う。このつる草の根に丸い鈴のような形の薯がつくが、その色は黒いものだそうだ。一方ジャガイモは原産地は南米アンデスで、侵略したヨーロッパ人が持ち帰り日本に入った物である。日本には直接はジャガタラから伝わったのでジャガタライモといったのが縮まってジャガイモになった。ジャガタラは現在ではジャカルタである。すなわちインドネシアの都市である。

こうしてみると、やはり両者は違う物だという事がわかる。

現代の我々は何も考えずに両者を混同しているが、地下の牧野先生はさぞかしお腹立ちの事だろう。

## ★★活動の記録★★ 2016年前半～2016年後半

### ★ふれあいウオーク「中土手」2016年6月26日(日) 9時30分～

松本春勇

久喜菖蒲公園の駐車場に集合。記念撮影を行い、中土手に向かう。観察会の直前に中土手は杉戸土木事務所によって、きれいに刈られていた。

橋を渡り中土手に降り上流へ向かう。まず、長須先生より、セイバンモロコシの説明あり。名前の由来は、セイバン（西蕃）とは西方（ヨーロッパ）のことで、穂の部分がモロコシ（蜀黍）に似ているので、ヨーロッパ産のモロコシと名付けられた。

途中、大きな木が数本生えているあたりで、ハグロトンボが沢山飛んでいる。

先生の説明は次々と続く。実が石のよう硬いのでイシミカワ。白い花が咲いた後の実から仙人の髭のような白い毛の花柱が残るのでセンニンソウ。クズは3枚でひとつの葉、マメ科の植物の特徴です。クズは葉が眠ります。太陽の日差しの強い昼間は真ん中の葉が立ち、光を受けないようにして水分の発散を守ります。ヤブマオは、からむし織りの素材に使われています。コウゾリナはざらざらして顔が剃れる。イヌゴマはシソ科で茎が四角です。カラスムギは種が黒い、スズメノチャヒキはカラスムギの小型版です。イヌゴマは刈られず、たくさん咲いており、ヌマトラノオは今年も見ることができた。保護地にはワレモコウ、アキカラマツ、ハンゲショウが見られた。会が保護しているヤブカンゾウは、まだ時期が早く、1週間から10日後が見頃でしょうか。

小さな橋を渡り、出発地に戻る。この度の観察会は、直前に中土手が刈られたため植物の数を心配していたが、思ったより多く観察する事が出来た。

最後に、久喜菖蒲公園駐車場近くの丘で、観察会の意見交換を行い、散会した。

#### 《 当日出席者の主な感想 》(文責会田)

島田さん (一般) いろいろな野草をみせてもらった。とても覚えられない。

塚本さん (一般) ネジバナ、ヌマトラノオを覚えた。

滝本さん 来てよかった。

平尾さん 天気がよかった。草が刈られていた。ヤブカンゾウが残されていた。沢山つぼみがあり、これから咲くと期待がもたれた。

塚原さん 1週間前草がぼうぼうで草刈りをした。ヤブカンゾウがよかった。

嶋田和子さん 3回目の参加です。ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ、タケニグサを覚えた。

おおきくなって困ったが名前を覚えると愛着が湧く。

島田優子さん 3人目のしまだです。ヤブマオを勉強した。

嶋田実さん 野草はよく分からない。たくさん教えてもらったがすぐ分からなくなった。セイバンモロコシを覚えた。これからも皆勤賞でいく。

和泉さん いろいろ見た。土手がきれいだ。遠くまでよく見えた。ヤブカンゾウがきれいだった。

原さん 東側の原です。イヌゴマがきれいだ。イヌがつくのは食べられないので残念。家で勉強する。

矢野さん イヌゴマきれいだったので家に植えます。タケニグサの実験台になった。私にもあいます。

清野さん イヌゴマ。ゴマでも役に立たないとイヌがつく。野草でも食べられるのがたくさんある。天ぷらになるのが沢山あるのでここに来ます。

春尾さん 会に入った時にはよく分からなかった。帰ってから図鑑を見て少しずつ覚えられるようになった。歩くのが楽しくなった。少しの努力をすると楽しくなる。

藤浪さん 私の言いたいことをすべて言ってくれた。非常に和やかに過ごせた。又来てみようという気持ちになってくれたと思います。

#### 《当日の主な野草》

クズ・セイバンモロコシ・ソクズ・セリ・イタドリ・ワラビ・コウヤワラビ・イシミカワ・センニンソウ・カラスムギ・クサヨシ・ヒレアザミ・ヤブマオ・ヨウシュヤマゴボウ・ヤマノイモ・カラスウリ・コウゾリナ・イヌゴマ・ドクダミ・ツルウメモドキ・ヤブカンゾウ・ガガイモ・オニユリ・ワレモコウ・アキカラマツ・ハンゲショウ・ウmanosズクサ・ヌマトラノオ・ユウゲショウ・ハキダメギク・ウキクサ・アキノノゲシ・ツユクサ・ノボロギク・コアカザ・ヤブガラシ・ナガバギシギシ・エノコログサ・ネジバナ・コヒルガオ・シマスズメノヒエ・シロツメクサ・チチコグサモドキ・アメリカオニアザミ・ウラジロチチコグサ・カタバミ・ニワゼキショウ・タケニグサ・ヘクソカズラ・ムギクサ

## ★ふれあいウオーク「吉羽天神」2016年9月11日(金)9時分～

平尾節子

この日はくもりから雨の予報である。くもりの方が歩きやすくいいなと思っていたが、結構晴れてしまった。9時集合に変更になったが、徹底していないので、遅くなる会員もいた。講師の長須先生が前日転倒されて、来られないというアクシデントもあり、不安なスタートとなった。しかし、代役の藤浪会長がそつなく説明をしていく。野草の名前を言うだけでなく、名前のいわれ、別名、外来種かどうか、絶滅危惧種かどうかなど、細かいことまで説明する。

駐車場から備中岐橋～吉羽天満宮～諏訪神社入口～野草保護地～駐車場に戻るといふ、いつものコースである。圏央道が開通して、道路近くの野草は変化した。毎回の観察会の時、見ることでできたオグルマはいつもの場所に咲いていなかった。吉羽天満宮の森の際にセンニンソウの白い花が幻想的に咲いていた。ただ、森は立入禁止になっており、ぎゅうぎゅう詰まって重苦しい感じであった。コースの田んぼにはミズワラビ、キクモ、ヒメガヤツリがあり、変わらぬ風景が見られた。

保護地では、ノジトラノオ、センニンソウ、フジバカマ、オグルマ、クマツヅラ、カニクサ、キクイモなどがあつたが、時期が過ぎているものが多く、少し寂しい風景だった。柳の木が大きくなり、下の植物に悪影響を及ぼしているのではないかという話も出る。保護地の川側では、オオオナモミ、セイバンモロコシが勢力を誇り、保護地を守っていくことは今後ますます大変だと感じた。

最後公園で、感想を述べ合つた。人とのふれあいを感じる場であつた。穏やかな気持ち良い半日を過ごすことができた。

### 《当日出席者の主な感想》(文責会田)

嶋田実さん 人とのふれあいがよく出来てよかつた。セイバンモロコシを覚えた。

嶋田和子さん オグルマ子供の時から好きでした。昔は多かつたが今は少なく絶滅危惧種ということ、庭にあつたが抜いてしまった。これからは大事にします。

白石さん 豆でヤブツルアズキ、生で食べたら懐かしい美味しい味がした。

柏木さん 初めての参加。皆さんと楽しく参加できた。昭和天皇が雑草にもすべて名前があるということばを聞いて勉強してみようと思った。

蓮見さん 久喜市民特派員をやっている。写真をいくつか撮つた。市に報告する。広報かホームページのいずれかに載せている。文字に書きだすが字数の制限があり、たいした報告ができないが絶滅危惧種の保護活動は報告する。

原さん ヤブツルアズキがたくさん咲いているのでびっくりした。

- 佐竹さん 正調カヤツリグサを家に植えてみます。
- 島田優子さん たくさん覚えようと意気込んで来たが、たくさん覚えることは無理なのでアレチヌスビトハギはしっかり覚える。
- 平尾さん 圏央道が出来て景色が変わった。タデ科の野草が多い。いろいろな野草が残っているいい所であると思った。
- 松本さん 資料は歩いたコース順に作ってあります。今日歩いたとおりに行けば資料の植物に会えます。写真も歩く順にまとめてあります。
- 秋田さん 木下・早坂さんから聞いていた。かなり運動になった。又来ます。
- 木下さん アレチヌスビトハギ、ヌスビトハギ等ハギがたくさん咲いていた。
- 和泉さん 今日は近年になく、仙人草がよく見えた。2, 3日前ならもっとよかった。
- 早坂さん 毎回あたらしいことの発見がある。ザクロソウを覚えた。知らない事を覚えるのも楽しい会である。
- 簾内さん 正調カヤツリグサ、ウシクグの違いが分かった。
- 清水さん 始めて出あったアレチヌスビトハギがあつて楽しかった。
- 本郷さん センニンソウの花を見たことが無かったが今日見せてもらい嬉しかった。短歌をしている、ハギはよく出てくる。面白い名前のハギを知った。
- 長谷川さん 今日は豆アサガオ。太田小ビオトープの委員をしている。応援お願いします。
- 春尾さん ガガイモのルートを覚える。花が咲く実がなる自然の散歩道が出来たと思います。
- 高橋さん 圏央道ができたおかげで回りは荒れ果てた気がする。人工のものができると自然が変わることに驚いた。
- 齊藤さん 今日は荒れていると思ったが自然と接することが良かった。元気を貰うことができ参加の意義がある。野草の名前を少しでも覚えたい。
- 滝本さん 風がいい心もちです。野草の勉強をさせてもらった。
- 藤浪会長 一番いいコンディションでした。吉羽地区ふれあいウオークで最後まで全員残ったのは始めのことです。昨日長須先生が無理という情報が入り本人からも出来ないとのことで代役させてもらった。一人一人収穫を得て帰って貰う。

## ★ふれあいウオーク「多摩森林科学園を訪ねて」

2016年10月27日(木)

山谷信義

10月27日(木) 定刻の午前8時に久喜駅東口から参加者25名を乗せてバスは一路圏央道を高尾山インターへ目指します。ところが直前のトンネル内で急にスピードが落ちてバタバタと異常音です。右側後輪のパンクでした。不幸中の幸いでしょうか、ダブルタイヤの一本がバーストしましたが残る一本は大丈夫でした。徐行しながら高速道路を抜け目的地の多摩陸墓の駐車場にたどりつくことができました。一步間違えば大変なことになっていたかもしれません。ヒヤリハットとはこのことでしょうか。バスは皆さんの見学中にタイヤの修理も済んでひと安心といったところ、皆さまにも元気な顔色が戻りました。この辺のこと今後とも充分配慮する必要を痛切に感じるところで反省しております。

多摩森林科学園は、7ヘクタールの敷地には2月下旬から5月上旬には250種1,500本の桜が開花して花見を楽しめるので、この時期に再び訪ねてみたいところです。  
が、しかし広大な敷地をもちながら自家用車の駐車場すら無く、ましてやバスでの来園者は道路の路肩

に止めて、あわてて降車するありさまです。日本国立施設の名前が泣き出しそうです！少しは利用者のことも考えて欲しいものです。

#### 越後そば 弥彦

新潟名物「へぎ蕎麦」越後をご存知の通り、日本一の米どころですが蕎麦も美味しいのです。お店の名前が「弥彦」、越後平野自慢の弥彦山からとりました。天へぎそば、お味はいかがでしたでしょうか。その土地その土地の名物を食するは、ふれあいウオークの楽しみのひとつでもあります。

#### 小澤酒造工場見学

多摩川源流に創業330年の歴史をほこる老舗酒蔵、沢カニのマークでおなじみです、澤乃井の仕込み水の石清水を見学、酒造りは水しだいでそうです。お酒のできるまでの行程を見学のうち、最後に「きき酒」を楽しみました。紅葉には少し早かったようですが奥多摩の川底まですき通る清流を堪能して青梅インターから家路につきました。

## ★太田小学校ビオトープ再活動

ビオトープ委員 長谷川雅夫

太田小ビオトープ再生活動については、前号NO.26会報7頁で、藤浪代表より巻頭言で紹介されました。今号では初年度の報告をさせていただきます。

- 1) 太田小ビオトープは、平成12年4月造成され、平成16年5月改修されました。最近では利用されていません。
- 2) 太田小学校ビオトープ委員会が、今年組織化され、6月より活動が始まりました。組織は①学校(校長・教頭・加藤先生) 境緑化部・児童緑化委員(PTA含む) ②コミュニティ協議会③NPO久喜の自然を愛する会(藤浪・長谷川)などです。  
実施は、4月～9月の第二水曜日、9時～10時の予定で、「先生・PTA・コミュ協・藤浪・長谷川など」で、ササの根切り、草刈りやドクダミを主体にした草刈りと、コミュ協さんによる樹木剪定やササ林の伐採など、日当たりスペースの拡大や、上面の確保を行いました。初年度は、10月～12月の延長で、春の準備を強化しています。(太田小だよりの〇〇月生活目標に、行事として、ビオトープ委員会が掲載されています)
- 3) 樹木伐採による、日光の取り込み。ケヤキ、ネズミモチ、ツゲ、ブラシノキ、ハズキなどコミュ協の方が、電動機械を使って行いました。
- 4) 移植した植物 オグルマ・ノジトラノオ・ミゾコウジュなどを藤浪代表が移植を行いました。  
ミゾコウジュは花が咲き、ロゼットが数株生育しています。先生へ報告したところ、目に見える成果と喜んでいただきました。PTAのお母さんに伝わると思います。
- 5) 見守りたい植物 ミコシガヤ・アゼナルコなど。
- 6) 年内の計画 ①伐採希望樹木のケヤキ・ヤナギに、目印をつけて学校の樹木伐採日への追加を依頼しました。(毎年1回の伐採日の有効利用を継続したいと思います) ②供給水源の確保は、自然水が難しい状況です。水道水をホースで利用する案が検討されています。
- 7) 今後の計画 児童の巻き込みは、今後の利用推進を含め、ビオトープ内の仮称の場所(山や水路など)の名前などを、考えさせる事を穂村校長は考えているようです。
- 8) 本会の取り組み ①ビオトープ内の環境が整った(日当たり・土面・湿り気など)場所への、植物の移植・種子植え計画の作成と実施。(春夏秋冬の季節性を重要視) ②本会員や、仲間の参加者集めて、苗や種子の植え付けをしたいと思います。

《 関連新聞記事 》

埼玉新聞 平成28年7月8日

久喜広報 平成28年11月号

28年度久喜市放課後子供教室  
「ゆうゆうプラザ」での活動

記録担当 宮川

実施月日	学校名	会からの参加者名	参加生徒数	講座名	活動内容
6月13日 (月) 15～ 16:30	東鷲宮 小学校	3名 (●塚原 ・宮川・花 野)	7人	植物 観察	校庭にて、シロツメクサ・アカツメクサを採取。ピオトープにてアサザ・デンジソウ観察。オオバコと採取持参した、外来種のヘラオオバコで綱引き相撲を行った。
7月2日(土) 9～11:30	本町 小学校	3名 (●宮川 ・藤浪・木 下)	17人	ザリガニ 釣り	好天下、生徒17名に父兄20名のお大きな集団でした。ロチャース近くの稲荷台用水にて実施した。参加者の7割がザリガニ釣り初体験。釣果を心配したが、間もなく「釣れた!」の声が上がリ、参加者全員もれなくザリガニ釣りを体験し、自然とのふれあいの楽しさを実感した。釣竿作りも体験。
7月11日 (月) 15～ 16:30	東鷲宮 小学校	2名 (●宮川 ・会田)	7人	ザリガニ 釣り	34℃の猛烈な暑さでしたが、近くの田圃脇の水路へ直行、父兄5人を交え釣りを開始した。間もなく「釣れた!」の声とともに父兄を含め全員釣果を手にした。参加者全員自然とのふれあいに満足そうでした。
7月16日 (土) 9～11:30	太田 小学校	5名 (●宮川 ・平尾・会田 ・花野・井 上)	18名	ザリガニ 釣り	校庭内の側溝に急ごしらえの川を作り、前日捉えてきたザリガニ80匹程を放流して開始。周囲に田圃のない学校であり、関心が高かった。全員釣りを体験感動し中には手掴みでザリガニの感触を体験喜ばれた。昨年釣り上げたザリガニを飼育し観察を続けた生徒がいて自然観察の遣り甲斐を感じた。釣竿作りも実行した。
9月3日(土) 9:30～ 11:30	太田 小学校	5名 (●宮川 ・藤浪・木 下・松本・清 水)	9人	どんぐり 遊び	吉羽公園と校庭内で木の実集め実施。マツボックリ・ツバキの実・マテバシイ・ギンナン等収獲。持込んだ「ムクロジ」の実や集めたマテバシイの実で独楽やストラップ作り、茹でて持込んだマテバシイを皆で食したり、灰汁抜きした栃ノ実を味わった。マツボックリをペットボトルの中に入れる勉強は強く印象に残った様だ。
9月26日 (月) 15～ 16:30	東鷲宮 小学校	3名 (●塚原 ・会田・宮 川)	6人	自然 観察	学校のピオトープを観察し、教室のコミュニティーセンター迄の間をエノコログサやカタバミを採取。持参したカヤツリグサを使い、四角の蚊帳を作った。カタバミで汚れた10円銅貨を皆で磨いた。ピカピカになり驚いた。
10月1日 (土) 9:30～ 11:30	太田 小学校	2人 (●塚原 ・宮川)	10人	自然 観察	教室でカタバミやエノコログサやカヤツリグサについて説明。校庭内のグラウンドを巡り、説明した三種の野草を探す体験を試みた。「見つけた!」と感動し教室へ持帰った。カタバミで汚れた10円銅貨を磨き、ピカピカになり驚いた。カヤツリグサで四角の蚊帳作りを行い、上手に四角が出来喜んだ。
10月24日 (月) 15～16:30	東鷲宮 小学校	1名 (●宮川)	8人	どんぐり 遊び	持参した木の実(クヌギ・マテバシイ・ツバキの実・栃の実)等を使用して、独楽作り・独楽まわし・ムクロジとマテバシイでストラップ作りを行った。ムクロジの皮でシャボン玉を作り楽しんだ。
		●はリーダー			

## ★新入会員情報 (取扱注意)

島田博子 24-0103

柏木三郎 090-5780-2233

以上2名が我々の仲間に新しく加入されました。よろしくお願いします。

現在会員数 48名

## ★今後の日程

七草採取	29年1月5日(木)	10時00分	ロジャース駐車場
七草がゆの会	29年1月6日(金)	10時00分(会員は9時)	太田集会所
野草写真展	29年3月1日～7日		久喜中央公民館 テーマ 外来種野草
なんじゃもんじゃ見学	29年5月4日(木)	9時30分	幸手市北公民館

## ★編集後記

\* 今年の秋も昨年同様雨の日が多かった気がする。秋晴れの日が少なくて秋らしい秋を感じないままに冬が来た。紅葉も一週間ほど早く感じた。

今期の冬はエルニーニョ現象が続く見込みで、暖冬らしい。

NPO法人久喜の自然を愛する会会報 NO27

2017年12月発行

発行 特定非営利活動法人久喜の自然を愛する会

発行人 藤浪 康義

編集人 宮川 俊治

松本 春勇